

ふるさと奥尻通信

平成26年3月28日
奥尻町教育委員会発行
事務局:01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭語

今冬は気温が緩んだりしばれたりの繰り返し。どうも調子が狂います。気温が緩んでも気は緩めずに風邪やインフルエンザに注意しましょう。春はもうすぐそこまで来てますよ。

特集 宮津小学校閉校 —宮津魂永遠に—

3月22日(土曜日)16:00から、宮津小学校の閉校式が体育館で挙行されました。この日は朝から晴天で、春の暖かな陽気に気分も晴れ晴れとする一日でした。

式典は、教職員と現役、OBのPTAや地元町民らが実行委員会をつくり、昨年来準備を進めてきたもので、短い準備期間ながらも良好な協力体制を築くことができ、無事に当日を迎えたものです。

当日は、実行委員長や校長の感慨深い式辞とともに全校児童の合唱があり、閉校の寂しさを新たにしました。それでも、続くお別れ会では思い出写真のスライド上映やヨサコイ演舞などが行われ、参列者を楽しませました。ヨサコイ演舞では、会場からはアンコールの声がかかり、児童の元気な姿に多くの卒業生が目細めていました。立派な記念誌も作成され、記録として後世に引き継がれる資料となるでしょう。また、稲穂ふれあい研修センターにも宮津コーナーを設ける予定です。

4月1日からは奥尻小学校として、単式学級の教員含め70人規模で再スタートすることとなっています。



当日の宮津小学校



式典会場



校旗の返納



初代校長禿智耀師と頌徳碑 昭和7年



記念の看板



児童によるヨサコイの演舞



茶津尋常小学校の児童たち 明治36年

宮津小学校の創立は明治23年(1890)ですが、その2年前に函館本願寺別院より茶津説教所に詰めた、後に初代校長となる禿智耀(かむろちよう)が仮教室を設け、子弟に教育を施したことに始まります。最初は奥尻尋常小学校の分教室として始まり、児童数は31名でした。同32年(1901)に奥尻第三尋常小学校として独立、同34年に茶津尋常小学校と改称、同44年に新校舎落成と続きます。その後、校舎は幾度か増改築を繰り返し、明治44年から35年までの44年間は宮津の沢を20分ほど登った山間部にありましたが、同35年に現在地に小中併置の新校舎が落成、平成8年に鉄筋コンクリート造の現校舎が完成しました。

昨年10月、児童たちは、かつての山間いにあった学校を見学に行きました。登下校に使った山道は険しく、今ではすっかり杉林となっていました。それでも、校長先生らが苦労して草刈りしたおかげで、建物の基礎石や材木の一部などを見ることができ、テープで間取りを再現したことで、校舎の規模を実感することができました。



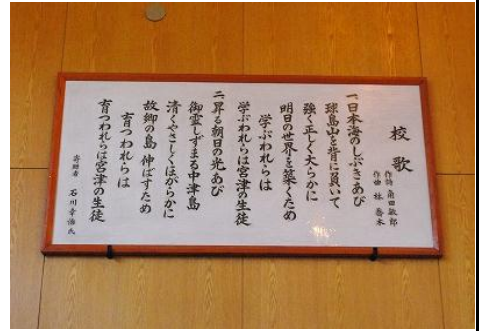
昭和30年の児童たち

宮津小学校 校歌

角田敏郎 作詞
林 喬木 作曲

Musical score for the school song with lyrics in Japanese.

宮津の生徒は 育つばらに 故郷の島は 清くやさしく 御霊が朝日に 昇る朝日の 光あび 学ぶ世界を 明く正しく 強島山を 球島山を 日本海の 背にぶき 大に負か 築らかいて 学ぶ築らかいて 学ぶ築らかいて 学ぶ築らかいて



体育館に掲げられた校歌



春の桜と校舎

作詩:角田敏郎、作曲:林 喬木(はやし たかき)による校歌は2番構成からなります。1番の「球島山」は、島内3番目の雄山で、島の3分の1を見渡せる展望台からの眺めは格別です。2番の「中津島」は、宮津の鎮守である宮津弁天堂に祀られる宗像3女神のうちの次女にあたる市杵島比売命(いちきしまひめのみこと)のことです。作曲者の林 喬木は函館師範学校(現 北海道教育大学函館校)で長く音楽教員を勤めた人物で、道内各地の学校の校歌を作曲しています。近隣では、八雲町熊石、上ノ国町湯ノ岱などの学校で名を見ることができます。

月刊 奥尻のつり 3月号

今年も水温が低いようです。それでも、奥尻港ではホッケやカレイが少し釣れているようです。サイズはまだまだ小型ですが、4月上旬に入れば釣果が期待できるでしょう。西海岸ではサクラマスがますます好調です。1.5～2kgほどの良型もあがっています。とはいうものの、もっぱら情報だけで、なかなか口には入らないのですがね…。赤石の潜水部会建物横では、ホッケのトバづくりが行われていました。近海で釣ってきたホッケだけれども、量は少なかったとのこと。このトバは、骨をとったロウソクボッケの身を包丁で切れ目を入れながら等間隔で起こして自然乾燥させたもので、乾燥後はこの切れ目を掴んで皮から剥がして食べます。添加物のない素朴な味なのですが、うま味があって酒のつまみには最適です。

昭和奥尻生活詩 15回

奥尻郡釣石尋常高等小学校一年生「詩集・海に生きる」より

船上げる兄 渡辺 正夫
船が腕も上げろ
おれも腕も上げろ
兄の腕も上げろ
おれも腕も上げろ
兄の腕も上げろ
おれも腕も上げろ

佐藤義則コー千来島
年こを二とを場出た身で
はと書十で訪へ席。地あり先
必でい四しねのす亡のる一日



円形トラスの体育館

奥尻小体育館に別れ
感謝。繁て間の夜会武はく校め小さら第一
の役に、は会大学りや長校ま三月

新衣之記録(編集後記)
旅立ちのシーズンですね。出
会いがあれば、別れもある。と

奥尻島短信
ご日ど・・・・・・
声スうム島青離地奥官宮キ雪
援タか！は小島酒尻庁津ト解



道警音楽隊 岡本旅館前 昭和47年